

政策 04 安全で安心なまちづくり

施策 02 消防・救急体制の充実

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿
消防・救急活動が迅速に行われ、市民の生命や財産が守られています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	人口1万人当たりの火災発生件数(出火率) (件) 【予防課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対 基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		2.3		2.5	2	☂ (低下)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年の火災件数は20件で、人口1万人当たりの火災発生件数(出火率)は2.5件となり、目標値である2件を上回る結果となった。 出火原因から人為的不注意による火災割合の高さが要因と考えられる。 					対 前年度
						目 標 達 成 度
						▬▬▬ (高)

指標	心肺機能停止患者の生存率 (%) 【消防署】	基準値	実績値	実績値	目標値	対 基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		8.1	8.1	7.5	-	☂ (低下)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年の心肺機能停止患者搬送件数66件に対する1ヶ月後の生存件数は5件であり、心肺機能停止患者の生存率は7.5%、前年同期比で0.6%低下という結果であった。 					対 前年度
						目 標 達 成 度
						(---)

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 火災予防体制の充実

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	消火器を使うことのできる市民の割合（％） 【予防課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		41.3	41.3	42.2	55	☀️ (向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の実績値は42.2％であり、前年同期比で0.9ポイント増加した。 まちづくりアンケートクロス集計では前年度同様依然として若い女性（専業主婦・パート・アルバイト・学生）の割合が低いことが要因と分析できる。 					☀️ (向上)
						☀️ (向上)
						目 標 達 成 度
						▬▬▬ (高)

基本事業01 火災予防体制の充実

指標	防火対象物の立入検査後の改善率（％） 【予防課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		73.0	73.0	73.0	65	☁️ (横ばい)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は73％と前年同期比で横ばいの数値となっているが、目標値の65％以上は達成できている。 年間を通じた不備改善の追跡指導が成果の要因であると考えられる。 					☁️ (横ばい)
						☁️ (横ばい)
						目 標 達 成 度
						🏰 (達成)

基本事業02 消防力の強化

指標	消防職員の充足率（％） 【消防総務課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		92.2		96.6	100	☀️ (向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は目標値100％に対して96.6％となった。 条例定数90名に対し、令和元年度の消防職員数は87名となり、計画的な採用が来ている。 消防署体験会の実施、近隣の大学、高校及び専門学校へ積極的なPR活動が成果に結びついていると考えられる。 					☀️ (向上)
						☀️ (向上)
						目 標 達 成 度
						▬▬▬ (高)

基本事業02 消防力の強化

指標	消防車の現場平均到着時間（分） 【消防署】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		8.6	8.6	9.7	8.5	☔️ (低下)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年に119番通報により出動した火災件数は20件（事後間知火災5件）となり、消防車の現場平均到着時間は前年同期比1.1分延伸となった。 消防署から火災発生場所までの平均距離が伸びたことによる走行時間の延伸、119番受信から火災指令までの時間及び火災指令から出動までの時間の延伸が要因として考えられる。 1ここでいう「消防車の現場平均到着時間」は事後間知火災を除いた火災において統計をとったものとする。 2事後間知火災とは通報時鎮火されていた火災のことをいう。 					☔️ (低下)
						☔️ (低下)
						目 標 達 成 度
						▬▬▬ (高)

基本事業02 消防力の強化

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	水利基準達成率（％） 【消防署】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	基準値
		91.1	91.1	92.6	92	☀
						(向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は92.6％となり、前年同期比で1.5％向上した。 分母となる整備対象区域の減少及び新設消火栓を6基設置したことが要因と考えられる。 現状で目標値は達成しているが、今後も市内の道路整備や宅地開発が続くことが見込まれるため消防活動上有効な場所を検討し計画的に消火栓を設置していく必要がある。 					☀
						(向上)
						☀
						(達成)

基本事業02 消防力の強化

指標	消防団員の充足率（％） 【消防総務課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	基準値
		96.1	96.1	98.4	100	☀
						(向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績は98.4％となり、前年同期比で2.3％向上した。 県補助金を活用した継続的な消防団員加入促進活動の実施などにより増員を図り、定員129名に対し、127名とすることができた。 					☀
						(向上)
						☀
						(高)

基本事業03 救急・救助体制の充実

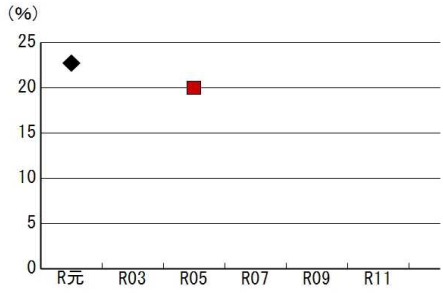


指標	救急車の現場平均到着時間（分） 【消防署】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	基準値
		6.8	6.8	6.8	6.8	☁
						(横ばい)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は6.8分となり前年同期比で横ばいの数値であった。 救急出動件数は増加しているが、出動までの準備時間の短縮や、出動ルートを検証等が延伸を止めている要因となっており、全国平均及び愛知県平均の現場到着時間よりも早い水準を維持できている。 					☁
						(横ばい)
						☁
						(達成)

基本事業03 救急・救助体制の充実

指標	救急救命士の救急車同乗率（％） 【消防署】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	基準値
		99.5	99.5	99.8	100	☀
						(向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は99.8％となり前年同期比0.3％向上となった。 救急救命士の養成が計画的に実施されていることや、救急救命士の充足率の向上が要因と考えられる。 					☀
						(向上)
						☀
						(高)

基本事業03 救急・救助体制の充実

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	現場に居合わせた救命講習受講者による心肺蘇生実施率（％）	基準値 (H30)	実績値 (H30)	実績値 (R元)	目標値 (R05)	対 基準値
		【消防署】	27.8	27.8	22.7	20
評価	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は22.7％となり、前年同期比5.1％低下となった。 実績値については現場に居合わせた者に左右され、年により大きく変動する数値となっている。 					対 前年度
						 (低下)
						目 標 達成度
						 (達成)